

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気ウォッチャー調査(8月)
～ 10-12月期の回復明確化を示唆 ～

発表日：9月8日(木)

(No. J - 108)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

		景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)			
		合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
04年	8	50.7	47.8	52.9	65.7	51.7	50.3	51.1	61.9	44.8	41.3	48	61.9
	9	47.3	44.6	49.7	61	50	49.3	49.1	57.3	42.7	38.8	47.3	59.9
	10	46.4	43.6	48.2	61.3	48.8	47.8	47	59	41.4	37.8	44.9	57.9
	11	45.3	43.1	46	58.4	45.8	45.2	44	53.1	40.9	36.9	44.9	58.8
05年	12	44.2	43.4	42.6	52.8	44	43.4	43.1	49.6	40.7	38.2	42.1	54.3
	1	45	44.3	43.1	53.5	48.3	48.1	46.5	53.2	40.2	37.8	40.3	55.3
	2	45.6	44.1	46.2	54	49.9	50.1	48.1	52.5	40.4	37.3	43.4	54.4
	3	49.5	48.3	50.1	56.4	49.8	49.9	47.5	54.2	44.2	42	46.1	54.9
	4	49.8	49	50.6	53.6	50.3	49.9	49.7	54.3	44.9	42.9	47.4	52.8
	5	50.3	49.7	50.1	55.1	51.9	51.6	50.7	56.2	45.1	43.5	46.1	53.5
	6	50.9	50.4	49.3	57.4	51.2	50.3	51.1	57.4	46.6	45.2	47	55.5
	7	50.4	49.3	49.7	58.8	52	50.9	52	58.4	45.8	43.6	46.9	57.1
8	50.5	49.1	50.9	59.5	51.9	50.7	51.4	61	46.3	44.4	47.7	56	

前年差

04年	8	4.3	3.3	4.8	9.9	2.8	2.5	0.8	8.4	8.9	6.9	9.7	21.4
	9	▲ 1.3	▲ 1.6	▲ 1.5	1.0	0.1	0.3	▲ 0.6	0.7	4.6	2.8	6.4	13.5
	10	▲ 4.4	▲ 5.2	▲ 4.3	1.1	▲ 2.3	▲ 2.6	▲ 3.8	2.0	▲ 0.1	▲ 2.5	2.4	10.3
	11	▲ 3.0	▲ 2.7	▲ 4.8	▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 1.8	▲ 5.3	▲ 3.1	2.2	0.6	2.5	11.9
05年	12	▲ 4.9	▲ 3.9	▲ 7.4	▲ 6.3	▲ 3.8	▲ 2.8	▲ 5.7	▲ 6.5	0.0	▲ 1.3	0.2	7.5
	1	▲ 3.6	▲ 2.6	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.9	▲ 2.0	▲ 4.7	▲ 6.2	▲ 0.3	▲ 1.1	▲ 0.9	4.9
	2	▲ 4.5	▲ 4.0	▲ 5.1	▲ 6.9	▲ 3.7	▲ 2.9	▲ 3.6	▲ 9.2	▲ 1.9	▲ 2.9	▲ 0.2	1.0
	3	▲ 4.2	▲ 3.1	▲ 5.3	▲ 8.7	▲ 3.8	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 8.9	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 2.2
	4	▲ 5.9	▲ 4.3	▲ 8.1	▲ 11.9	▲ 5.0	▲ 4.2	▲ 5.6	▲ 8.9	▲ 2.9	▲ 2.3	▲ 4.2	▲ 4.6
	5	▲ 2.5	▲ 0.8	▲ 5.0	▲ 8.5	▲ 3.1	▲ 2.5	▲ 3.3	▲ 7.0	▲ 0.3	0.7	▲ 1.8	▲ 3.9
	6	▲ 0.5	1.4	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 2.9	▲ 3.0	▲ 1.9	▲ 5.0	1.5	3.1	▲ 1.5	▲ 3.5
	7	▲ 3.9	▲ 3.1	▲ 6.2	▲ 5.2	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 2.5	▲ 4.8	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 4.0	▲ 2.1
8	▲ 0.2	1.3	▲ 2.0	▲ 6.2	0.2	0.4	0.3	▲ 0.9	1.5	3.1	▲ 0.3	▲ 5.9	

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

○ 底堅い

本日公表された8月の景気ウォッチャー調査によれば、現状判断D I (方向性)は50.5と前月から0.1Pの改善、先行き判断D Iは51.9と▲0.1Pの悪化と、前月からほぼ変わらなかった。また、現状判断D I (水準)は46.3と0.5Pの改善となった。現状判断D I (方向性)は4ヵ月連続、先行き判断D Iは5ヶ月連続で、水準が「景気に中立」を意味する50を上回っており、底堅い結果といえよう。企業動向関連のウォッチャーコメントでは、原油を中心とする原材料価格高騰の悪影響を指摘する声も多く、このところの改善度合いは緩やかなものにとどまっているが、改善傾向が途切れる事態には至っていない。

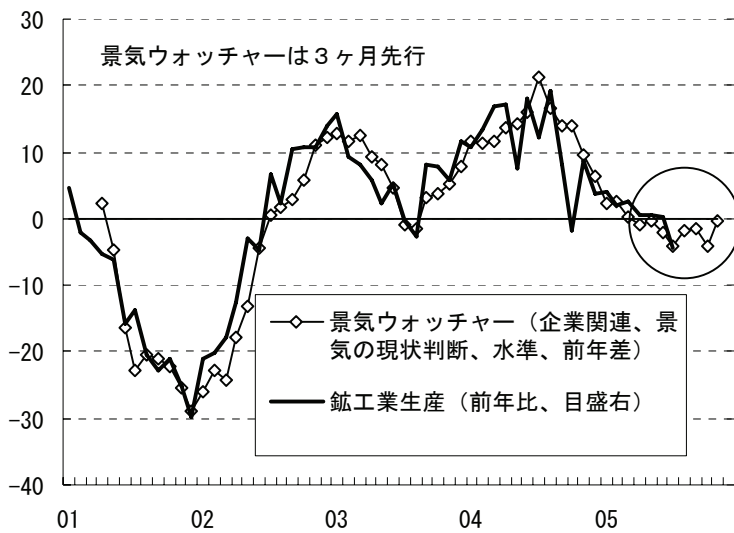
なお、景気ウォッチャー調査は歴史が浅いこともあって季節調整値は作成されておらず、原系列のみの公表となっている。そのため、景気ウォッチャー調査を見る際には、公表されている原数値ではなく、前年差(もしくは季節調整値)も見る必要がある¹。実際に、景気ウォッチャー調査の、企業動向関連のD I前年差

¹調査に際しては、各ウォッチャーに対してなるべく季節要因を判断の根拠としないようにとの指示が出されているようだが、それでもなお、過去の結果を見る限りでは、年末に悪化し年初には上昇しやすいといった季節性が窺える。

をとったものと鉱工業生産の前年比を比較すると、鉱工業生産に2～3ヵ月程度先行する形で高い相関を示す。

そこで、8月調査での前年差を確認すると、現状判断D I (方向性)は▲0.2(前月▲3.9)、先行き判断D I (方向性)は同+0.2(前月▲1.4)、現状判断D I (水準)は同+1.5(前月▲2.9)と、すべて前月から大きく改善を示している。家計動向関連が引き続き底堅いことに加え、これまで改善が鈍かった企業動向関連が改善したことが特筆される。景気ウォッチャー調査の鉱工業生産に対する先行性を勘案すると、10～11月頃には生産の回復が徐々に明確化してくることが示唆されている。輸出もまだ明確に改善はしていないことなどから、7-9月期に関しては景気はややもたつくことが予想されるが、その後年末にかけて徐々に回復力を強めてくると考えられる。

(P) 景気ウォッチャー調査(企業関連、水準)と鉱工業生産 (%)



景気ウォッチャー調査(企業関連、方向性)と鉱工業生産

